「結いの文化」をこれからも

篠山中学校　二年　立石　唯

四国の山あいに残る助け合いの文化。高知県のある小さな村でも、この助け合いの心がたくさんの人の命を救いました。裏山からの濁流が水路からあふれ返っていることに気付き、一人の主婦が取った勇気ある行動が、多くの地域住民の命を救ったのです。私は「結いの文化」を読み、共に助け合うことの大切さを改めて感じました。

私の住んでいる篠南地区も山あいにあります。そんな私の住む地域にも、いつ災害が起こるか分かりません。最近では南海地震についてのニュースをよく耳にするようになりました。そのニュースを見るたびに、私の住む地域や私たちはどうなってしまうのだろうという恐怖を感じます。このような状況である今だからこそ、「結いの文化」を大事にしなくてはいけないと思います。私の近所にはた

20 × 20

くさんのお年寄りが住んでいます。一人暮らしの方も少なくありません。災害が起こったときには、近所に住む人同士で声をかけ合い一緒に避難すべきだと感じました。このように、助け合いの輪ができていることで、大きな被害を未然に防ぐことができます。

たくさんの命を救った主婦の方は、「結いの文化」がいつも心にあったからこそ、すぐ行動できたのだと思います。「結いの文化」はこれからも私たち一人一人の心に残していかなくてはならない大切な心の文化です。これからも、助け合いの気持ちをもち、支え合えるような温かなつながりを地域の人たちと共に作っていきたいです。

20 × 20